NHK

平成26年度 収支予算と事業計画〔要約〕

平成26年度予算・事業計画のポイント

【「平成24～26年度　NHK経営計画」最終年度の取り組み】

■ 平成26年度は、3か年経営計画の最終年度として、4つの重点目標の達成に向けた取り組みを推進

1. 公　共	2. 信　頼	3. 創造・未来	4. 改革・活力
安全・安心を守る公共放送の機能強化	世界に通用する質の高い番組や地域放送の充実	放送・通信連携の新サービスの開発	効率的な経営の推進・営業改革

【平成26年度収支予算】

■ **事業収入**

・事業収入は、受信料の増収等により、前年度に対して150億円の増収

・受信料は、受信契約件数の増加等により、前年度に対して207億円の増収

■ **事業支出**

・事業支出は、国内放送・国際放送の充実等により、前年度に対して60億円の増

・番組の充実に加え、安全・安心を守るための公共放送の機能強化の拡充・前倒しやスーパーハイビジョンなど次世代のサービスの開発・推進を実施

・一方で、給与の削減や受信対策費の減をはじめ、事業運営の一層の効率化を推進

■ **事業収支差金**

・収入の増加と支出の抑制により90億円の事業収支差金を確保し、このうち80億円を、老朽化の進む渋谷の放送センターの建替え等に備えて建設積立資産に繰入れ

収支予算（一般勘定）

（億円）

区　分	平成25年度予算額	平成26年度予算額	増減額	増減率
事業収入	**6,479**	**6,629**	**150**	**2.3%**
受信料	6,221	6,428	207	3.3%
その他の事業収入	258	201	△ 56	△21.8%
事業支出	**6,479**	**6,539**	**60**	**0.9%**
国内放送費	2,856	2,919	63	2.2%
国際放送費	158	171	13	8.5%
契約収納費	582	582	△ 0.1	△0.02%
受信対策費	45	37	△ 8	△19.2%
調査研究費	88	99	10	12.0%
給与	1,234	1,197	△ 36	△ 2.9%
退職手当・厚生費	613	631	17	2.9%
減価償却費	673	673	0.6	0.1%
その他の事業支出	226	227	0.3	0.2%
事業収支差金	—	**90**	**90**	—
資本支出充当(建設積立資産繰入れ)	—	**80**	**80**	—
収支過不足	—	**10**	**10**	—

億円未満は切り捨てて表示

経営計画との比較（3か年で413億円の収支改善）

●平成24～26年度の3か年の事業収入は受信料の増収等により313億円の増収、事業支出は事業運営の効率化を一層推進して99億円を抑制

【経営計画】

（億円）

区　分	24年度計画	25年度計画	26年度計画	3か年計
事業収入	6,489	6,451	6,549	19,489
うち受信料	6,269	6,179	6,305	18,753
事業支出	6,489	6,498	6,539	19,526
事業収支差金	—	△ 47	10	△ 37

【24年度決算・25年度見込み・26年度予算】

区　分	24年度決算	25年度見込み	26年度予算	3か年計
事業収入	6,603	6,570	6,629	19,803
うち受信料	6,387	6,312	6,428	19,127
事業支出	6,408	6,479	6,539	19,427
事業収支差金	195	91	90	376

受信料の増収等 +313億円

支出抑制 △99億円

収支改善 +413億円

〔収支改善額の使途〕

建設積立資産（建設積立金） 366億円

25年度計画の赤字の解消 47億円

建設積立資産（建設積立金）と財政安定のための繰越金

●建設積立資産（建設積立金）…渋谷の放送センターの建替え等に備え、これまでの収支改善額等から確保した積立資産

●財政安定のための繰越金……大規模災害や経済状況の急激な変化等による収支の不足に対応するための繰越金

（億円）

区　分	25年度末見込み	26年度増減			26年度末見込み
		25年度事業収支差金	26年度取崩し	26年度繰入れ	
建設積立資産（建設積立金）	779	91	—	80	950
財政安定のための繰越金	※ 929	△ 91	△ 56	10	792

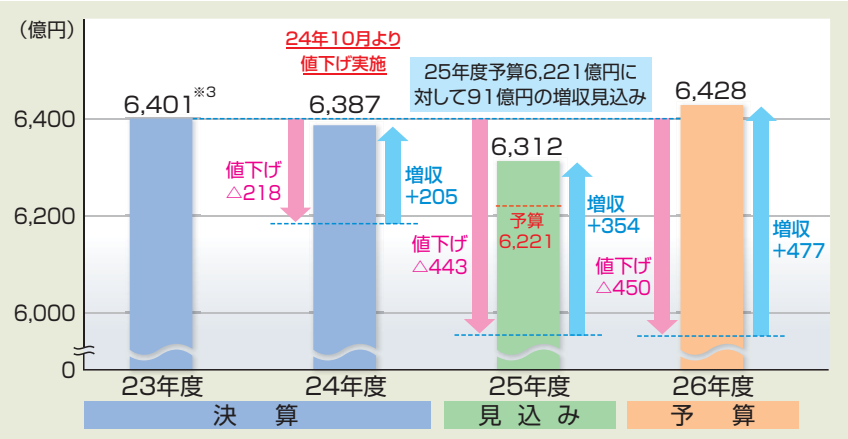
※25年度の事業収支差金91億円（見込み）を反映

受信料収入（受信契約件数の増加等により6,428億円を確保）

●営業改革の推進により、受信料の公平負担に向けた取り組みを徹底（支払率※1 75%、収納率※2 97%）

※1　支払率＝支払数／受信契約対象数（受信契約対象数は、22年国勢調査結果等を基に推計）　※2　収納率＝収納数（支払数）／受信契約数

受信料収入の推移



受信契約件数等

（万件）

区　分	26年度増減	26年度末件数
支払数 (A)−(B)	62	3,785
契約総数 (A)	49	3,912
未収数 (B)	△ 13	127
衛星契約数※4	68	1,847

※3　23年度までは消費税の会計処理は税込方式によっていたが、比較のため税抜で表示

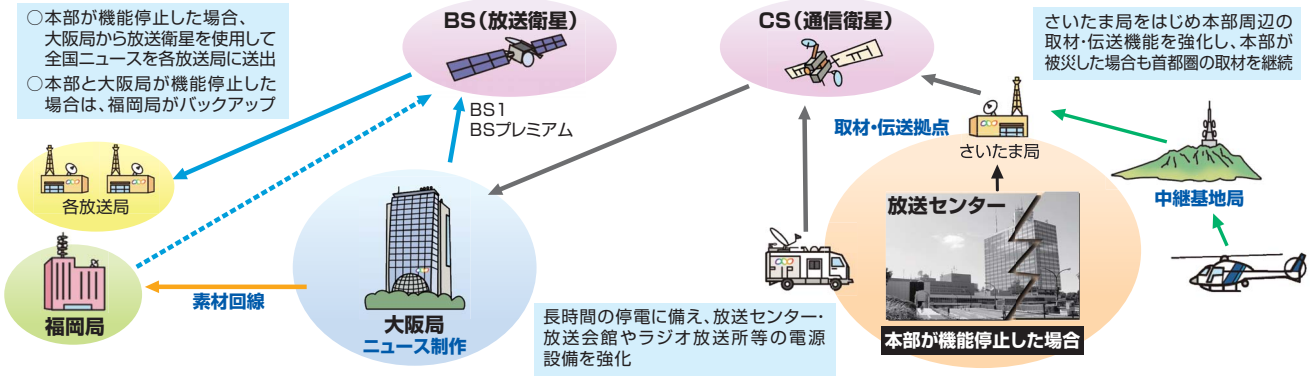
※4　特別契約を含む

1. 公 共　公共放送の機能強化と東日本大震災からの復興支援

●南海トラフ巨大地震の被害想定の見直しを踏まえ、大規模災害への備えを一層強化

①いかなる災害時にも対応できるよう、放送設備と体制を強化
②地域の安全･安心に役立つ情報を提供
③東日本大震災を検証し、復興を支援する番組を制作
④災害の映像･証言を歴史的資料として記録し、保存･活用

本部のバックアップ機能整備（本部が機能停止した場合、大阪局等で全国ニュースを送出 など）



2. 信 頼　世界に通用する質の高い番組と地域放送サービスの充実

平成26年度の主な番組

〈世界に通用する大型番組〉
NHKスペシャル「人体　ミクロの大冒険」、「ホットスポットⅡ」

･2014FIFAワールドカップ ブラジル放送の実施
･平成27年3月の放送開始90周年にふさわしい多彩な番組

総　合	大河ドラマ「軍師官兵衛」〈日･後8時台〉 「花子とアン　ー連続テレビ小説ー」〈月～土･前8時台〉
教　育（Eテレ）	「エデュカチオ！」〈土･後5時台〉 「いじめをノックアウト」〈金･前9時台〉
BS1	「国際報道2014」〈月～金･後10時台〉 「めざせ！2020年のオリンピアン～東京五輪の原石たち～」〈土･後5時台〉
BSプレミアム	「英雄たちの選択」〈木･後8時台〉 「にっぽん縦断　こころ旅」〈月～金･前7時台〉

大河ドラマ「軍師官兵衛」

「いじめをノックアウト」

「にっぽん縦断　こころ旅」

ラジオ第1	「ラジオ深夜便」〈月～日･後11～前4時台〉
ラジオ第2	「エンジョイ･シンプル･イングリッシュ」〈月～金･前9時台〉
F　M	「MISIA　アフリカの風」〈火･後11時台（第1～3週）〉

地域放送（地域の再生、活性化への貢献）

･平日夕方6時台や金曜夜間に、より地域に密着した情報を提供
･ドラマなど、地域を舞台にした番組を充実
･全国54放送局のホームページで災害情報、避難情報、生活安全情報等を提供
･地域放送番組の字幕放送を拡大

国際発信力の強化（テレビ･ラジオ･インターネットを通じて多角的に発信）

NHKの国際放送と海外発信　NHK WORLD

テレビ	NHK ワールドTV（英語）	外国人向けテレビ国際放送 1日24時間 ニュース･情報番組等を放送
テレビ	NHK ワールド･プレミアム（日本語）	邦人向けテレビ国際放送 1日およそ5時間 ニュースを中心にノンスクランブル放送 テレビ番組配信 1日およそ19時間 ドラマ、子ども番組等を配信
ラジオ	NHK ワールド･ラジオ日本	日本語と17言語での音声サービス
インターネット	インターネットによるサービス	ニュース･番組の動画配信、音声やテキストの発信

●NHKワールドTVの充実（15ジャンル･34番組→15ジャンル･43番組）
･基本編成を1日「4時間×6回」→「6時間×4回」へ
･日本の国際貢献を紹介する番組など、新たな分野の番組を放送
･日本情報･アジア情報を強化

●インターネットの充実
･ストリーミング視聴の機会拡大（アプリ開発など）
･多言語サービスの強化（テキストニュース 11言語→14言語 など）
･ホームページの機能･利便性の向上

●受信可能地域の拡大（平成25年11月 NHKワールドTV受信可能世帯数 2.7億世帯）

24時間英語ニュース「NEWSLINE」

「Asia　Insight」

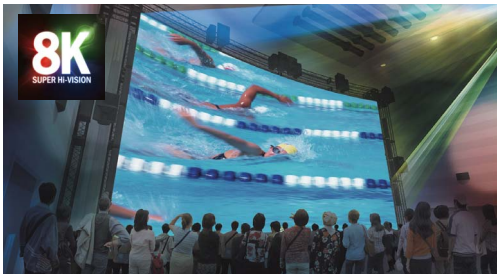
携帯端末のイメージ

3. 創造・未来　放送と通信が連携する時代にふさわしい新たなサービスの開発

●2016年（平成28年）の試験放送開始に向けた、超高精細映像システム「スーパーハイビジョン」の研究開発と、パブリックビューイング等を通じた普及促進

年度	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)
イベント	サッカーW杯（ブラジル）		リオデジャネイロ五輪	ピョンチャン五輪	サッカーW杯（ロシア）		東京五輪
ロードマップ	（4K試験放送開始）	8K実験放送開始	8K試験放送開始				8K本放送開始

8Kスーパーハイビジョンのロードマップ



スーパーハイビジョンパブリックビューイング

●平成25年9月に総合テレビで提供を始めた、放送と通信の連携サービス「ハイブリッドキャスト」を、教育テレビ（Eテレ）やBS1、BSプレミアムに拡大

NHK Hybridcast

ハイブリッドキャスト ホーム画面の例
（ハイブリッドキャスト対応テレビをインターネットに接続して利用）

●「NHKオンデマンド」は、より多くの方にご利用いただけるよう、コンテンツの充実や利便性の向上を推進

NHKオンデマンド（有料配信する動画サービス）

「見逃し番組」
「大河ドラマ」等の番組を放送から14日間程度配信

「ニュース番組」
「NHKニュース7」等のニュース番組を放送から1週間程度「見逃し見放題パック」で配信

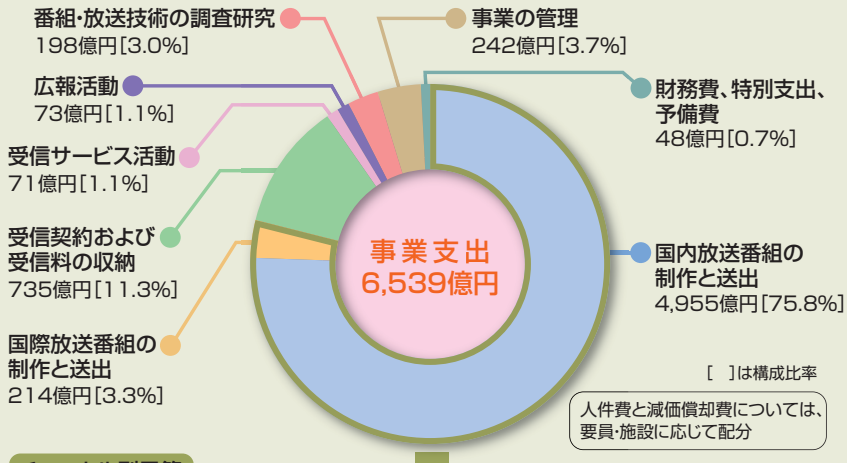
「特選ライブラリー」
過去の名作ドラマや大型ドキュメンタリー番組等を配信

テレビ・パソコン・携帯端末で利用可能　http://www.nhk-ondemand.jp/

4. 改革・活力　効率的な経営の推進による公共放送の価値の最大化

①NHK独自の手法により、経営計画の達成状況を管理・検証
②業務全般にわたり経費を削減し、効率的な業務体制を構築
③ガバナンスの強化など、効率的なグループ経営を推進
④公共放送・受信料制度への理解促進を図る広報活動を展開

業務別予算



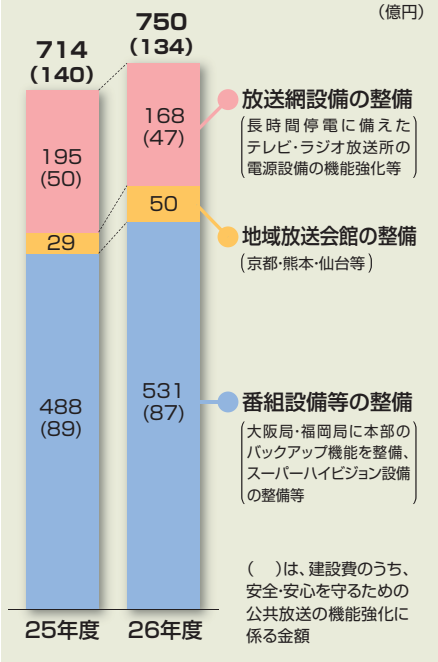
チャンネル別予算

（億円）

区分	合計	総合	教育（Eテレ）	BS1	BSプレミアム	ラジオ第1	ラジオ第2	FM	テレビ国際	ラジオ国際
26年度予算（ ）は構成比率	5,170 (100%)	2,726 (52.7%)	658 (12.7%)	741 (14.4%)	524 (10.2%)	170 (3.3%)	52 (1.0%)	81 (1.6%)	150 (2.9%)	63 (1.2%)

複数のチャンネルで放送する番組の経費は、受信契約件数や放送時間の比率等で配賦
各チャンネルに共通して係る経費は、番組制作経費や放送波数の比率等で配賦

建設費（設備投資）



予算や決算に関する詳しい資料はNHKのホームページでご覧になれます。http://www.nhk.or.jp/pr/

R100 このパンフレットは環境に配慮し、古紙配合率100%の再生紙を使用しています。
PRINTED WITH SOY INK このパンフレットは大豆油インクを使用しています。